

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年 11月 30日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492700103		
法人名	医療法人みやうち		
事業所名	グループホーム宮内温泉ひまわり		
所在地	広島県廿日市市宮内字佐原田4215-1 (電話) 0829-30-6071		
自己評価作成日	令和5年10月23日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3492700103-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年11月6日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

食事は毎食職員が手作りで提供しており、誕生日や季節の行事等、行事食には特に力を入れています。誕生日のお食事は入居者様のご希望をもとに作りますが、コロナ感染症が第5類となったこともあり、担当職員と一緒にドライブも兼ねてカフェなどに出かけたりもしています。今後はご家族様にもお声かけし、一緒に楽しんでいただければと思っています。
日常生活ではその方のペースで過ごしていただいております。調理や掃除、洗濯物を畳んだり花や野菜の世話など、出来る方は無理のないようにしていただき、役割を持った生活を送っていただけるようご支援させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

理念「安心して笑顔のある日々をすごしていただきます」をもとに、基本方針4項目を設定し、その中の1項目をその日の支援方針として実践している。利用者の出来る事、興味がある事を重要視してケアプランの目標に掲げ、手作り調理の下準備の皮むき、机拭き、配膳、野菜や花の手入れ、洗濯物たたみ等、楽しみながらの支援に取り組んでいる。誕生日にはリクエスト料理の提供や家族、担当職員と一緒にドライブでカフェに外出支援する等楽しみになるよう工夫している。運営推進会議が対面での再開となり、出席者による情報交換の場となり、地域の催し物、公民館活動の情報等、地域交流を深めるよう検証している。併設の医療機関連携により健康管理や緊急時の協力体制、職員がいつでも提案や意見が話しやすい環境を整備している。庭に温泉効果がある足浴ができる場があり、事業所名の由来にもなっている。

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	月1回の法人の朝礼の時に法人理念の唱和を行い、毎日の業務前に当ホームの理念の唱和をして職員への意識付けを行っている。	毎日の申し送り時に事業所理念を唱和し、基本方針の中から1項目を今日取り組むべき目標に決め実践している。部署目標として「支え合い、思いやる気持ちを「忘れずに」を共有して、日々支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナ感染予防に伴い地域との交流がなかなかできていなかったが、本年5月に第5類へ変更となつてからは認知症カフェへ参加したり、ボランティアの方へのお願ひも再開している。	認知症カフェが再開され、職員と共に参加する事で地域住民との交流をしている。地域農家から米の購入や近隣の方から野菜を頂く等の繋がりや初詣、花見、買い物、市民センター便り等を通して交流が出来るよう検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ感染症が発生してから法人の健康フェアが中止となっているが、認知症カフェについては再開している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	おおむね2カ月に1回運営推進会議を開催している。ご家族、民生委員、行政職員、地域包括支援センター等地域の方に参加いただき、サービスの内容について報告し、意見交換を行っている。	コロナ禍で書面上の開催であったが、今年6月より家族、市役所高齢介護課職員、民生委員、事業所職員等の参加で対面での開催を行っている。活動状況、利用者・職員情報、今後に向けての取組み等意見交換の場となりサービス向上に活かしている、全家族に議事を郵送し共有している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議へ参加いただき、活動状況を報告してご意見をいただいている。相談や提出書類がある時には窓口へ伺い、顔の見える関係を築いている。	運営推進会議議事録や提出書類、相談等、直接市高齢介護課の窓口に出向き信頼関係の構築に努めている。市主催の研修や地域密着型グループホーム会議に参加し、情報交換を行い、サービス向上に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関はドアのセンサーを設置する等して職員が常に注意している。法人内の研修やホームでの勉強会により、常に職員が身体拘束をしないケアについて意識できる体制を築いている。新しく入職した職員に対しても身体拘束をしないケアについて指導をしている。	毎月法人全体で身体拘束対策委員会、事業所内の勉強会や自己チェックリストを活用し検証を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。新人職員は身体拘束防止に対する指針やスピーチロック指導、職員間でも気に掛ける等行い、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	法人全体の虐待防止研修に加え、当ホームでも虐待防止について学ぶ場を作っている。そこで高齢者虐待防止に関する考え方について学び、虐待案件が発生しないよう取り組んでいる。	/	/
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在は成年後見制度等を利用されている方はいないが、以前は対応をしていた。必要時には法人内の社会福祉士が関わったり、成年後見制度利用促進センター等の紹介も行う。	/	/
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に行っている。法人在宅事業部職員、グループホーム管理者より必要な説明をわかりやすく伝えるようにしている。約款や重要事項説明書、料金表の変更があれば再度同意を得るようにしている。改定時には運営推進会議でも説明している。	/	/
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議での意見交換やホームの玄関には意見箱を設置している。契約時には管理者等に相談が可能な旨説明している。いただいた意見については職員間で検討をしたり、内容によってサービス向上委員会等でも検討をしている。	担当職員が日々のケアや会話の中から意見を把握し、年1回利用満足度アンケートや電話を通して意見の把握をしている。連絡方法として電話ではなくメールでの送信の希望やコロナ感染症が第5類となり、誕生日に家族と一緒にカフェ外出が楽しかった等の意見を反映していく検討をしている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回勉強会を行い、その際に職員から意見を聞く場を設けたり、朝礼や終礼でも話しやすい雰囲気づくりに努めている。意見については職員間で検討をしたり、上司に報告して対応できるようにしている。	勉強会や申し送り時、年1回の個人面談を通じて意見を聞く機会を設けている。日頃のケアの中で福祉用具の必要性や勤務体制等、いつでも話しやすい雰囲気作りや環境作りをしている。eラーニングを使用しての研修やオンライン研修等、意識向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	日頃から職員に声かけをする等してコミュニケーションをとるように努め、提案しやすい雰囲気づくりに意識している。人事考課制度で管理者から職員への面接を定期的実施しており、向上心を持って働ける職場づくりを目指している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人全体の研修ではeラーニングを使用し、外部の研修への参加やオンライン研修への参加も推奨している。介護の質向上を目指す法人内組織としてCATがあり、研修を実施したりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	2カ月に1回ホーム長会議を開催しており、各ホームでの取り組みについて情報共有を行い、お互いにサービスの向上につながるよう取り組んでいる。地域で連絡協議会などがあれば参加をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の面談の際にご本人の想いや不安に感じていること等について聞き取りを実施している。入居後もコミュニケーションを積極的にとるようにしており、不安なく安心して生活して頂けるように努めている。うまく意思表示できない方についても表情や、日頃の発言の中から意向を把握できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に自宅へ訪問したり契約の際にご家族の意向を伺うようにしており、不安などがあれば理解していただけるよう説明を行い、安心してご利用いただけるように努めている。入居後も日常生活の報告等をしながら家族との連携に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	自宅訪問時や契約時等にご本人、ご家族の関係性や悩み、希望などについて確認し、日常生活を楽しんでいただけるよう、機能訓練の希望も取り入れ、必要なサービスに繋がられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一人ひとりの個別性をしっかりととらえ、台所仕事、掃除、洗濯たたみ、調理などを一緒に行っている。ご本人から「机を拭こうか?」と行ってくださることもあり、一緒に行いながらコミュニケーションをとることで、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や電話などで日頃の様子を伝えたりしている。こちらからお願いしたいこと、ご家族の要望などをお聞きしながら、お互いに良い関係づくりができています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会制限を徐々に解除しており、面会の方と直接話ができる機会を持てるようにしている。ご家族などとの外出についても徐々にできるようにしている。携帯電話を持っている方もおられ、友達などと話をされている。	手紙、電話の取り次ぎ、受診の際に出会った方との会話や誕生日に家族や職員と一緒に外出し、カフェで寛いでいる時に好きだったバームクーヘン店を思い出して、その店に行ってケーキを選んでもらい懐かしみが持てる等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりの入居者様を把握してトラブルになる前に、職員が間に入って話題を変えたり雰囲気を変えたりしながら支援に努めている。あまり積極的に話されない方には職員から声掛けなどを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院などにより退居された際にも病院へ面会へ行ったり、家族から相談があれば対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の性格や今までの生活環境、お好きなもの等を把握し、一人ひとりに合ったケアができるよう努めている。ケアプラン見直し時には入居者や家族の要望を踏まえたうえでプランにも反映させている。	日頃の生活の中や入浴時にしっかり関わる事で、利用者の興味ある物等を把握し全員で共有している。表出の難しい利用者はしっかりと寄り添い、目線や仕草で把握に努め、ケアプランに組み入れる等、楽しみに繋がるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にご本人やご家族から生活歴について聞き取りを行い、職員全員で共有するようにしている。入居された後も普段の会話などから把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタル測定を行い、心身状態や身体の変化について確認をしている。歩行時や排せつ時、入浴時の介護状況などから有する能力の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプラン作成時、入居者様やご家族の想いや意向を把握し、暮らしやすい環境の中で生活して頂けるよう、カンファレンスで職員が意見を出し合っている。3カ月ごと、状態に変化があった時にはモニタリングを行い、必要に応じて再アセスメントをして計画の変更を行っている。</p>	<p>利用者、家族の意向を把握し、出来る事や楽しみな事に着目したサービス内容になるよう、職員や専門職の意見や提案が反映された介護プランを作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、状態や体調に変化があればその都度見直す等、現状に即した介護プランを作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアプランに基づいたケアの実践に努め、日々の生活記録を介護経過記録に記入し、施設で共有しているノートも使いながら申し送り等で職員間で情報共有し、創意工夫を心掛け改善や見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者のADLを把握し、リハビリ専門職による指導のもとにその方に合ったリハビリを行っている。日々の食事を管理栄養士に評価してもらったり、訪問歯科や訪問美容等を取り入れ、ニーズの充足に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>ボランティアの方に来ていただいたり、地域の美容院への外出、買い物にも出かけており、メリハリのある生活を送っていただけるように支援している。お米を地域の方から購入したり、野菜をいただく等、地域との繋がりを大切にしながら施設運営をしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時に入居後の受診希望医療機関を確認し、併設の病院であれば職員が付き添って受診している。異常があれば臨時受診を行い、状態に応じてご家族へも連絡をしている。</p>	<p>契約時に利用者、家族にかかりつけ医の説明を行い確認をしている。併設の協力医療機関に受診の際は職員が同行している。変化があれば家族に連絡説明をしている。毎週月曜日に訪問歯科の受診もできる。専門医受診は家族対応である。看護師による健康管理や適切な医療支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は情報や気づいたことを職員間で共有して看護師等へ相談をしている。バイタル測定、食事量、水分量、排泄状況、皮膚状態等異常がみられる時には受診支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの日々の様子ADL、好みや習慣等について病院担当者へ伝えていく。入院中は病院へ訪問したりご家族へ連絡したり、病院の担当者の方へ連絡して状態の把握に努めている。退院時には状態を把握するため、病院でカンファレンスが開催される際には積極的に参加している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化した場合に関する指針について説明している。そういう状況になった時は医師から説明を行い、ご本人やご家族の意思をできるだけ尊重し、併設病院の協力を得ながらチームでの支援に取り組んでいる。	契約時「重度化した場合・看取りに関する指針」を説明し確認している。現管理者になってから看取りはないが、医師からの説明、利用者、家族の人格や意見、意向を尊重し、併設の医療機関と協力連携を図りチームでの支援に取り組み実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	院内研修や勉強会で急変時や事故発生時の対応について継続的に学んでいる。事故発生時には報告書を作成し、対応や対策について話し合っ共有し、再発防止に努めている。また、目につきやすい場所にマニュアルを置いて周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	月に1回色々な災害を想定した訓練をご入居者も参加して行い、内容の検証をしている。法人として災害時の協定を地域として結んでいる。	災害時の法人マニュアルはいつでも閲覧でき、併設の小規模多機能ホームと合同で毎月利用者と一緒に訓練をしている。訓練の際は事前に消防署に伝え、実際に非常時119番通報を行い、災害時の訓練を実施している。災害時の非常食を倉庫内に備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個別性を重視し、自由に生活して頂き、自室におられる時は扉を閉めて過ごされる方もおられ、定期的に訪室して見守りや声かけをしている。排泄時の介助については声かけの声の大きさに気を付ける等、プライバシーを意識した介護を心掛けている。敬意を持って接するよう、職員同士が声を掛け合って意識している。	接遇についての研修を行い、利用者個人への呼称や排泄誘導の際の声掛けや声のトーンにも配慮し、人格を尊重した声掛けに努めている。個人情報等の保管場所も鍵付きの収納庫に保管する等、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日頃からのコミュニケーションを大切にし、誕生日会の時に食べたいものや行きたい場所などを聞いて、少しでも思いに沿えるようにしている。自己決定が難しい方についても生活歴や性格、日々の様子などから想像し、意向に沿った支援ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	バイタル測定や表情、会話の内容等によりその日の体調を把握し、希望に添えるように「お茶にしませんか?」「リビングに行きませんか?」等その都度確認し、無理が無いよう本人のペースに併せて対応するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問美容が定期的に来られ、ご本人の希望で髪を染めたりパーマをしたりしている。化粧もしてもらって楽しまれている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は毎食手作りで提供しており、出来るまでのおいなども感じていただいている。可能な方には皮むきや机拭き、配膳などを手伝っていただいている。誕生日にはリクエストを確認したり、行事の時は四季折々を感じていただけるようなメニューを提供している。ホームにある畑で一緒に収穫し、それを料理に入れたりもしている。	畑で収穫した野菜や近隣の方からの頂き物、農家から購入した米等、毎食手作りの献立を提供している。行事食、季節料理、誕生日に利用者のリクエストで好きな物を提供し、調理の音、匂い、利用者は皮むき、机拭き、配膳等、出来る事が楽しみに繋がる支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	週ごとに栄養バランスを考え、たうえで献立をたてている。それぞれの方に合った食器や食事形態について職員間で検討しながら提供している。月に1回の体重測定、6か月に1回の栄養チェック等により状態を把握し、必要があれば職員間で検討して栄養状態の改善が図れるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後声かけをし、見守りや介助を行うと同時に口腔内の観察や清潔保持に注意している。定期的に歯科医師が来て口腔ケアなどについての指示や指導を職員に対して行っている。また、必要に応じて訪問歯科の利用もしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンをつかんで、自尊心を傷つけないよう優しい声かけを心がけ、トイレに座っていただいている。オムツ着用の方も時間を決めてトイレへ座っていただいている。	排泄パターンを把握し、一人ひとりに合った優しい声掛けでトイレで座位での排泄をしている。自宅ではリハビリパンツが布パンツに、オムツがリハビリパンツに変わる等、自立に向けての支援に取り組んでいる。食事に海藻、牛乳、青汁、きな粉等で、便秘予防に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	一人ひとりの排便確認を行い、便秘気味の際には水分摂取量や食事内容にも配慮する。体操やストレッチなど体を動かし、腸の動きを良くして便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴日は決めておらず、おおむね週2、3回入浴いただいている。シャワーチェアや足浴用バケツ等を使用し、入居者に合わせたスタイルで入浴を楽しんでいた。入浴が好きでない方へは時間を置いた声かけ等無理をせず、工夫しながら支援している。	週2～3回、午前浴、午後浴を基本とし、無理強いせず、一人ひとりの体調や気分等、様子を見ながら柔軟に対応している。入浴時のヒートショックや入浴後の保湿剤塗布や職員と一緒に着換え選び、普段は無口な利用者が子供の話をする等、入浴を楽しむ支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者の体の状態に応じて声かけをして休んでいただいている。室温や寝具の生活に気を付け、昼食後や個々の体力に合わせて休息をとっていただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人の薬表を作成し、効能、副作用、用法など職員全員が把握できるようにしている。服薬後の変化を観察して記録に残し、職員で状態を共有できるようにしている。必要時には話し合いの場で検討したり、医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	今までの生活歴、好み、趣味などを把握し、台所仕事や洗濯物たたみ、掃除など可能な限り役割を持っていただくようにしている。花の世話、ゲーム、計算など個々の興味のあることを提供できるように努めている。また、みんなで歌を歌ったり体操をしたり、作業などを行うことで笑顔を引き出せるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的には庭に出て花や野菜の世話をしたり、職員と散歩にも出かけている。春の桜や秋のもみじの時期等ドライブに出かけたり、誕生日にはカフェなどにも外出している。	外出自粛で思うような外出支援が困難な中で、花の水やりや野菜の世話、職員が天気の良い日の提案で敷地内駐車場そばの桜見物を弁当持参で楽しんだり、利用者誕生日に家族、職員と一緒にカフェに外出支援を行い笑顔が見られる等、楽しめる取り組みを実践している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者様の希望や力に応じてお金を持っていただき、買い物の時などに使っていただくこともある。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を所持されている方もおり、使い方がわからない場合は手伝っている。希望時には施設の電話でご家族と話もしていただいている。ご家族から届いた手紙を喜ばれている方もおられ、希望があれば手紙を出していただくこともできる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日洗面台や部屋を掃除しており、中には職員と一緒に掃除をされる方もいる。管内の温度や湿度、換気や調光等に配慮している。壁などには入居者様が作成された作品を貼ったり、季節を感じていただけの飾りつけをしている。	感染症対策、温度、湿度、換気、採光等に配慮している。四季折々の飾り付けや似顔絵、日めくりカレンダー、利用者の体型に合わせ背あてやクッションを使用し無理のない座位が保てる工夫をしている。車いすの移動が行いやすいよう机、テレビ、ソファ席を設置し寛げるよう整備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファやテレビ、新聞や本などを置き、一人ひとりが好きな時間を過ごしていただけるようにしている。テラスに出て過ごせるようにもしており、気分転換をしていただけるよう工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個人の部屋にはその方が自宅で使われていたなじみのものや家具を置くことで、なるべく昔住んでいた家に近づけるようにしている。また、ご家族の写真を置いている方もおり、それを見ながらご家族の話をしたりしている。職員も一緒に部屋の整理整頓を行い、快適に過ごせるよう支援している。	居室には洗面台、エアコン、ベット、クローゼットが設置してある。自宅で使い慣れた物、馴染みの品物、仏壇、冷蔵庫を持参し、一人ひとり思い思い工夫がみられ居心地よく過ごせるよう配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレには手すりが設置され、転倒予防とともに一人ひとりの力を活かせるようにしている。入居者様の残存機能を大切に、できることはなるべくして頂けるよう声かけをしたり、出来る環境づくりに努めている。		

V アウトカム項目(1階) ← 左記()内へユニット名を記入願います		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	月1回の法人の朝礼の時に法人理念の唱和を行い、毎日の業務前に当ホームの理念の唱和をして職員への意識付けを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	コロナ感染予防に伴い地域との交流がなかなかできていなかったが、本年5月に第5類へ変更となってからは認知症カフェへ参加したり、ボランティアの方へのお願いも再開している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ感染症が発生してから法人の健康フェアが中止となっているが、認知症カフェについては再開している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	おおむね2カ月に1回運営推進会議を開催。ご家族、民生委員、行政職員、包括視線センター等地域の方に参加いただき、サービスの内容について報告し、意見交換を行っている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議へ参加いただき、活動状況を報告してご意見をいただいている。相談や提出書類がある時には窓口へ伺い、顔の見える関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関はドアのセンサーを設置する等して職員が常に注意している。法人内の研修やホームでの勉強会により、常に職員が身体拘束をしないケアについて意識できる体制を築いている。新しく入職した職員に対しても身体拘束をしないケアについて指導をしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>法人全体の虐待防止研修に加え、当ホームでも虐待防止について学ぶ場を作っている。そこで高齢者虐待防止に関する考え方について学び、虐待案件が発生しないよう取り組んでいる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在は成年後見制度等を利用されている方はいないが、以前は対応をしていた。必要時には法人内の社会福祉士が関わったり、成年後見制度利用促進センター等の紹介も行う。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時に行っている。法人在宅事業部職員、グループホーム管理者より必要な説明をわかりやすく伝えるようにしている。約款や重要事項説明書、料金表の変更があれば再度同意を得るようにしている。改定時には運営推進会議でも説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議での意見交換やホームの玄関には意見箱を設置。契約時には管理者等に相談が可能な旨説明している。いただいた意見については職員間で検討をしたり、内容によってサービス向上委員会等でも検討をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回勉強会を行い、その際に職員から意見を聞く場を設けたり、朝礼や終礼でも話しやすい雰囲気づくりに努めている。意見については職員間で検討をしたり、上司に報告して対応できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	日頃から職員に声かけをする等してコミュニケーションをとるように努め、提案しやすい雰囲気づくりに意識している。人事考課制度で管理者から職員への面接を定期的実施しており、向上心を持って働ける職場づくりを目指している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人全体の研修ではeラーニングを使用し、外部の研修への参加やオンライン研修への参加も推奨している。介護の質向上を目指す法人内組織としてCATがあり、研修を実施したりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	2カ月に1回ホーム長会議を開催しており、各ホームでの取り組みについて情報共有を行い、お互いにサービスの向上につながるよう取り組んでいる。地域で連絡協議会などがあれば参加をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の面談の際にご本人の想いや不安に感じていること等について聞き取りを実施。入居後もコミュニケーションを積極的にとるようにしており、不安なく安心して生活して頂けるように努めている。うまく意思表示できない方についても表情や、日頃の発言の中から意向を把握できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に自宅へ訪問したり契約の際にご家族の意向を伺うようにしており、不安などがあれば理解していただけるよう説明を行い、安心してご利用いただけるように努めている。入居後も日常生活の報告等をしながら家族との連携に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	自宅訪問時や契約時等にご本人、ご家族の関係性や悩み、希望などについて確認し、日常生活を楽しんでいただけるよう、機能訓練の希望も取り入れ、必要なサービスに繋げられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ひとりひとりの個別性をしっかりととらえ、台所仕事、掃除、洗濯たみ、調理などを一緒に行っている。ご本人から「机を拭こうか？」と行ってくださることもあり、一緒に行いながらコミュニケーションをとることで、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や電話などで日頃の様子を伝えたりしている。こちらからお願いしたいこと、ご家族の要望などをお聞きしながら、お互いに良い関係づくりができています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会制限を徐々に解除しており、面会の方と直接話ができる機会を持てるようにしている。ご家族などとの外出についても徐々にできるようにしている。携帯電話を持っている方もおられ、友達などと話をされている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ひとりひとりの入居者さなを把握してトラブルになる前に、職員が間に入って話題を変えたり雰囲気を変えたりしながら支援に努めている。あまり積極的に話されない方には職員から声掛けなどを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院などにより退居された際にも病院へ面会へ行ったり、家族から相談があれば対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の性格や今までの生活環境、お好きなもの等を把握し、ひとりひとりに合ったケアができるよう努めている。ケアプラン見直し時には入居者や家族の要望を踏まえたうえでプランにも反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にご本人やご家族から生活歴について聞き取りを行い、職員全員で共有するようにしている。入居された後も普段の会話などから把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタル測定を行い、心身状態や身体の変化について確認をしている。歩行時や排せつ時、入浴時の介護状況などから有する能力の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプラン作成時、入居者様やご家族の想いや意向を把握し、暮らしやすい環境の中で生活して頂けるよう、カンファレンスで職員が意見を出し合っている。3か月ごと、状態に変化があった時にはモニタリングを行い、必要に応じて再アセスメントして計画の変更を行う。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアプランに基づいたケアの実践に努め、日々の生活記録をカルテに記入し、施設で共有しているノートも使いながら申し送り等で職員間で情報共有し、創意工夫を心掛け改善や見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者のADLを把握し、リハビリ専門職による指導をもとにその方に合ったリハビリを行っている。日々の食事を管理栄養士に評価してもらったり、訪問歯科や訪問美容等を取り入れ、ニーズの充足に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>ボランティアの方に来ていただいたり、地域の美容院への外出、買い物にも出かけており、メリハリのある生活を送っていただけるように支援している。お米を地域の方から購入したり、野菜をいただく等、地域との繋がりを大切にしながら施設運営をしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時に入居後の受診希望医療機関を確認し、併設の病院であれば職員が付き添って受診している。異常があれば臨時受診を行い、状態に応じてご家族へも連絡をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は情報や気づいたことを職員間で共有して看護師等へ相談をしている。バイタル測定、食事量、水分量、排泄状況、皮膚状態等異常がみられる時には受診支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの日々の様子ADL、好みや習慣等について病院担当者へ伝えていく。入院中は病院へ訪問したりご家族へ連絡したり、病院の担当者の方へ連絡して状態の把握に努めている。退院時には状態を把握するため、病院でカンファレンスが開催される際には積極的に参加している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化した場合に関する指針について説明している。そういう状況になった時は医師から説明を行い、ご本人やご家族の意思をできるだけ尊重し、併設病院の協力を得ながらチームでの支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	院内研修や勉強会で急変時や事故発生時の対応について継続的に学んでいる。事故発生時には報告書を作成し、対応や対策について話し合って共有し、再発防止に努めている。また、目につきやすい場所にマニュアルを置いて周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	月に1回色々な災害を想定した訓練をご入居者も参加して行い、内容の検証をしている。法人として災害時の協定を地域として結んでいる。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個別性を重視し、自由に生活して頂き、自室におられる時は扉を閉めて過ごされる方もおられ、定期的に訪室して見守りや声かけをしている。排泄時の介助については声かけの声の大きさに気を付ける等、プライバシーを意識した介護を心掛けている。敬意を持って接するよう、職員同士が声を掛け合っていて意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日頃からのコミュニケーションを大切にし、誕生日会の時に食べたいものや行きたい場所などを聞いて、少しでも思いに沿えるようにしている。自己決定が難しい方についても生活歴や性格、日々の様子などから想像し、意向に沿った支援ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	バイタル測定や表情、会話の内容等によりその日の体調を把握し、希望に添えるように「お茶にしませんか?」「リビングに行きませんか?」等その都度確認し、無理が無いよう本人のペースに併せて対応するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問美容が定期的に来られ、ご本人の希望で髪を染めたりパーマをしたりしている。化粧もしてもらって楽しまれている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は毎食手作りで提供しており、出来るまでのにおいなども感じていただいている。可能な方には皮むきや机拭き、は以前などを手伝っていただいている。誕生日にはリクエストを確認したり、行事の時は四季折々を感じていただけるようなメニューを提供している。ホームにある畑で一緒に収穫し、それを料理に入れたりもしている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一 日を通じて確保できるよう，一人ひと りの状態や力，習慣に応じた支援をし ている。	週ごとに栄養バランスを考えたくて献 立をたてている。それぞれの方に合った 食器や食事形態について職員間で検討し ながら提供している。月に1回の体重測 定、6カ月に1回の栄養チェック等により 状態を把握し、必要があれば職員間で検 討して栄養状態の改善が図れるよう努め ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後声かけをし、見守りや介助を行う と同時に口腔内の観察や清潔保持に注意 している。定期的に歯科医師が来て口腔 ケアなどについての指示や指導を職員に 対して行っている。また、必要に応じて 訪問歯科の利用もしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン，習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	ひとりひとりの排泄パターンをつかんで、 自尊心を傷つけないよう優しい声か けを心がけ、トイレに座っていただい ている。オムツ着用の方も時間を決めて トイレへ座っていただいている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	ひとりひとりの排便確認を行い、便秘気 味の時には水分摂取量や小k時内容にも 配慮する。体操やストレッチなど体を動 かし、腸の動きを良くして便秘の予防に 努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	入浴日は決めておらず、おおむね週2、 3回入浴いただいている。シャワーチェ アや足浴用バケツ等を使用し、入居者に 合わせたスタイルで入浴を楽しんでい ただいている。入浴が好きでない方へは時 間を置いた声かけ等無理をせず、工夫し ながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。	入居者の体の状態に応じて声か けをしがりして休んでいただい ている。室温や寝具の生活に気 を付け、昼食後や個々の体力に 合わせて休息をとっていただけ るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	個人の薬表を作成し、効能、副 作用、用法など職員全員が把握 できるようにしている。服薬後 の変化を観察して記録に残し、 職員で状態を共有するようにし ている。必要時には話し合いの 場で検討したり、医師に報告し ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	今までの生活歴、好み、趣味な どを把握し、台所仕事や洗濯も のたたみ、掃除など可能な限り 役割を持っていただくようにし ている。花の世話、ゲーム、計 算など個々の興味のあること を提供できるように努めてい る。また、みんなで歌を歌った り体操をしたり、作業などを することで笑顔を引き出せる よう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	日常的には庭に出て花や野菜の 世話をしたり、職員と散歩にも 出かけている。春の桜や秋のも みじの時期等ドライブに出かけ たり、誕生日にはカフェなどに 外出している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している。	入居者様の希望や力に応じてお 金を持っていただき、買い物 の時などに使っていただくこと もある。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を所持されている方もおり、使い方がわからない場合は手伝っている。希望時には施設の電話でご家族と話もしていただいている。ご家族から届いた手紙を喜ばれている方もおられ、希望があれば手紙を出していただくこともできる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日洗面台や部屋を掃除しており、中には職員と一緒に掃除をされる方もいる。管内の温度や湿度、換気や調光等に配慮している。壁などには入居者様が作成された作品を貼ったり、季節を感じていただける飾りつけをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファやテレビ、新聞や本などを置き、一人一人が好きな時間を過ごしていただけるようにしている。テラスに出て過ごせるようにもしており、気分転換をしていただけるよう工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個人の部屋にはその方が自宅で使われていたなじみのものや家具を置くことで、なるべく昔住んでいた家に近づけるようにしている。また、ご家族の写真を置いている方もおり、それを見ながらご家族の話をしたりしている。職員も一緒に部屋の整理整頓を行い、快適に過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレには手すりが設置され、転倒予防とともに一人一人の力を活かせるようにしています。入居者様の残存機能を大切に、できることはなるべくして頂けるよう声かけをしたり、出来る環境づくりに努めています。		

V アウトカム項目(2階) ← 左記()内へユニット名を記入願います		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム宮内温泉ひまわり

作成日 令和6年2月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	職員の人手不足もあり外出支援が出来ていない。	外出の時間が作れる。	入居者様のお誕生日や記念日などご家族様に協力をお願いしてドライブや散歩などが出来る。	1年
2	65	地域とのつながりが少ない。	地域の方々に運営推進会議へ参加して頂く。	地域のコミュニティセンターなどに積極的に出向き参加いただけるように声掛けをする。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。